

紺碧の海と断崖が織りなす絶景に、太古の地球を感じる

しまじま 島々 もよう

vol. 12

Shimokoshikishima

下甕島

切りたった断崖が続く

薩摩半島の西方に浮かぶ甕島列島には3つの有人島があり、その中でもっとも南にあるのが下甕島です。中甕島とは蘭牟田瀬戸海峡で隔てられ、海峡の幅は約1キロメートル。現在は架橋工事が進行中で、将来的には上甕・中甕と下甕の3島がつながることになります。

特異な海岸景観などが評価され、昨年3月に甕島列島は国定公園に指定されました。下甕島は特に急峻な地形で、高さ150メートルを越える断崖が続く鹿島断崖など荒々

しい景色が随所で見られます。展望所から眺めるもよし、あるいは遊覧船に乗って海上から迫るもよし。ダイナミックな景観は圧巻です。

また、下甕島では白亜紀後期(約8000万年前)の地層(姫浦層群)が露出しており、平成23年には国内初となるケラトプス類(角を持った肉食恐竜)の化石が発見されました。肉食恐竜や他の生物の化石も見つかっており、薩摩川内市鹿島支所で見学することができます。

ほかに、ナポレオン岩をはじめとする奇岩の数々、カノコユリの咲き乱れる丘、ウミガメが産卵に訪れる手打浜など、島には見どころがたっぷりあります。

平成24年より「こしき島アクアスロン大会」が毎年秋に開催。これは、手打浜の透明度の高い海を泳ぎ、美しい島の風景の中を走るといいうものです。島民挙げて大会準備を進め、参加者たちをもてなします。毎年多くの人が訪れ、秋のイベントとして定着しています。

地域おこしで新たな名所も

平成24年より「こしき島アクアスロン大会」が毎年秋に開催。これは、手打浜の透明度の高い海を泳ぎ、美しい島の風景の中を走るといいうものです。島民挙げて大会準備を進め、参加者たちをもてなします。毎年多くの人が訪れ、秋のイベントとして定着しています。



また、「助八古道」という新たな観光スポットも整備されました。もとは山間にあつた生活道で、約40年前まで使われていました。これが島民やボランティアの手で、トレッキングコースとして再生。島の東西を横断する約6キロメートルの古道を散策しながら、自然の豊かさや昔の生活の名残に触れることができます。

島々メモ

トシドンが訪れて子どもに新年の誓いを立てさせる



大晦日の晩にトシドンという恐ろしい形相の神さまが、家々を訪れて「いい子でいたか!」と子どもたちに行いを反省させ、新年の誓いを立てさせます。トシドンは無事に年をとれるように「年餅」(大きな餅)を与えて去って行きます。ユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録。

- 【位置】北緯31度43分21秒／東経129度44分21秒
- 【面積】66.12km² 【周囲】84.8km
- 【人口】2,383人／1,480世帯(平成28年2月1日現在)
- 【地形】南北約20kmの細長い形状。

- 尾岳(標高604m)を最高峰とする山がちな地形で、西海岸に断崖が多い。
- 【主な産業】水産業(キビナゴ、ブリ、タカエビ、アジなど)
- 【アクセス】串木野新港からフェリーが1日2便、鹿島港・長浜港に寄港。川内港から高速船が1日2便(長浜港までの所要時間は最短で約70分)。川内駅から川内港までのシャトルバスあり。

問い合わせ先：薩摩川内市 企画政策部企画政策課甕はひとつ推進室
☎0996-23-5111